２０２６年１月吉日

年頭のご挨拶

日本洋酒輸入協会
理事長　磯野太市郎

２０２６年の年頭にあたり、会員の皆様には謹んで新年のご挨拶を申し上げます。
平素より、日本洋酒輸入協会の活動に格別のご支援を賜り、誠にありがとうございます。
旧年中は、皆様がそれぞれの職場においてご尽力され、無事に新たな年をお迎えになられたことと拝察いたします。本年も変わらぬご厚情を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、振り返りますと、昨年は酒類業界が多くの予期せぬ課題に直面した一年だったと感じております。トランプ関税や酒米価格の高騰など、業界に大きな影響を与える事象が相次ぎました。その中で、昨年 10 月には改正有機 JAS 法が本格的に施行され､3 年間の猶予期間が設けられていたものの､制度の周知が必ずしも十分ではなく、戸惑う事業者の方も少なくなかったのではないかと危惧しております。
また、ニューヨークで昨年９月に開催された第 4 回国連 NCDs ハイレベル会合の政治宣言では、あらためて 2030 年までに有害なアルコール使用の低減を含む具体的な世界目標の実施の加速が掲げられました。
酒類業界としても有害なアルコール使用の低減に向けた取り組みを一層推進することが重要であるとの認識を新たにいたしました。

輸入洋酒業界の状況に目を向けますと、酒類全体の需要が低迷傾向にある中、国際情勢の影響による資材・輸送費の高騰に加え、円安が輸入コストの高止まりに拍車をかけています。一方、国内では物価上昇が続くものの、実質賃金の伸びは見られず、消費者マインドは冷え込んでいます。こうした状況のもと、酒類の輸入数量と金額の推移を見ると、数量はこの数年間、対前年比でマイナスが続いています。一方で、大きく増加してきた金額は、この数年では伸び幅が鈍化し、今年度はほぼ横ばいで推移しています。輸入数量の約 3 割を占めるボトルワインも同様の傾向が見られます。

当協会といたしましては、輸入洋酒業界を取り巻く厳しい環境の改善に少しでも貢献すべく、各種活動に取り組んでおります。

脆弱なインポーターが多い業界の健全な経営基盤の確立と消費喚起を目指し、果実酒に対する減税措置の実現を関係当局および各政党に強く要望いたしました。

また、品質保証および消費者保護の観点から、事故発生時の追跡・回収に不可欠な製造ロット番号が削除された輸入酒類の流通防止に向け、国税庁に対し法的規制の導入を継続的に働きかけております。

さらに、国内市場の活性化を図るべく、在日各国大使館等からのご依頼を受け、生産者・業界団体による来日ミッション酒類セミナーや関連企業向けウェビナーにおいて、日本の酒類市場の動向や特性に関する説明を行うとともに、生産者の来日プログラムへの助言を行いました。

そして、本年 3 月には第 3 期アルコール健康障害対策推進基本計画の閣議決定が予定されております。制度改正や表示義務の強化など、法制度面での対応が求められる中、業界全体としてのコンプライアンス意識の向上と消費者からの信頼確保が重要なテーマとなっております。当協会といたしましても、重要課題である酒類容器へのアルコール量表示の制度化に向け、尽力してまいる所存です。

本年も、酒類業界が抱える諸課題に対し、他の業界団体との連携を図りつつ、輸入洋酒業界ひいては酒類業界全体の健全な発展に資するべく、引き続き取り組んでまいります。

最後に、2026 年は丙午（ひのえうま）の年にあたります。

『丙』は陽の火を、『午』は活力と行動力を象徴し、情熱をもって果敢に挑戦する一年を示しておりますが、勢いだけでなく冷静な判断も求められる年とも言われております。

当協会といたしましても、この丙午の年が酒類業界の飛躍の転機となりますよう、皆様とともに歩んでまいります。

会員各位の更なるご繁栄を心より祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。